

苫小牧市立清水小学校学校だより

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

第4号 令和3年6月25日発行

TEL 33-7285
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

どんどん育つ清水の子



校長 堀田 稔

学校行事の中でも一番天候に左右される「運動会」をコロナ感染防止の観点から、ミニ運動会に変更して、3日間実施したにもかかわらず、3日間とも予定通り実施できたのは、雨の多い季節にしてはめずらしいことではないかと感じています。子ども達の日頃の頑張りが空に届いたのかもしれない。

～人の役に立つということ～

運動会1、2年生実施の時には6年生がお手伝いに来て、自ら仕事を探して動いてくれたり、他の学年でも係や担当が積極的に活動してくれたり、競技の頑張りはもちろんのこと、競技以外の部分での活躍が見られたのは、とてもうれしく感じました。また、人の役に立つことは子ども達にとっての大きな喜びでもあります。その、周りの人のことを考えて動く力が「大人の言動を見て育つ」ということはよく言われますが、学校だけではなく、ご家庭での教育力の大きさ、家庭環境のすばらしさを実感できた運動会でした。

世の中の普通の仕事全てが、誰かしらの人の役に立つものです。そして、どんな場面でも準備や裏方の仕事があってこそその表舞台です。どこの部分に自分の喜びを感じ、どのように周りの人の役に立ちたいかを考えて仕事を選択していく、子ども達の今後の一助になってほしいと願っています。

～人を育てる環境とは～

人を育てるのは「環境」とよく言われますが、「環境」と言っても場所、人、物、自然等々多くのものが環境と言われます。また、子どもの周りにいる大人の言動も大きな環境要因と言われます。ですから、自分の周り全てが環境であるといっても良いのではないかと考えています。人や場所などすべてのものの幅が広いと気づかされます。例えば、「場所」というと自然や風景、人口などに注意が行きがちですが、色々な地域に住まれた方はお気づきのことと思いますが、場所によって使う言葉の違いにも、驚くことが多くあります。

～言葉の環境～

苫小牧で有名な言葉の一つに「サミット袋」があります。由来を聞いてなるほどと納得しましたが、この歳にして私が初めて耳にした言葉でした。その他に北海道独特の言葉がありますが、聞いた言葉での行き違い、当たり前前に考えていたことが違ったなどの例がたくさんあります。ある地方では「降りる」ことを「落ちる」と言ったり、「肉」というと「牛肉」のことであったり、「お水」というと「炭酸水」であったり、もめごとの一因ともなりかねない言葉の違いがあります。自分の育った場所の言葉だけでの会話には気を付けなくてはならないことがたくさんあるため、この日本で暮らすだけでも、多くの知識や言葉が必要になります。

将来、どこの地で活躍するかわからない子ども達に、仕事を選択し、それに喜びを感じ、努力する力を身につけ、どこに行っても不自由しない知識と言葉を得てもらうために、今後も学校・家庭・地域の教育力とコミュニケーションを大切にして教育活動を進めていきたいと考えています。子ども達のより良き成長のために、変わらぬご理解とご支援、そして、ご参画をどうぞよろしくお願いいたします。